

Title	2024年度大学院法学研究科修士学位論文一覧
Sub Title	Titles of master's thesis for the academic year 2024
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2025
Jtitle	慶應義塾大学大学院法学研究科論文集 (Proceedings of Keio University Graduate School of Law Studies in Law and Politics). No.65 (2025.) ,p.[429]- 435
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069591-00000065-0429

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2024 年度大学院法学研究科修士
学 位 論 文 一 覧

番号	専 攻	氏 名	論 文 名
3187	民事法学	一木 大朔	フランス法における事務管理—事務管理の対外的効果をめぐる考察—
3188	民事法学	金治 有哉	代表取締役の選定・解職権限を株主総会に与える旨の定款規定の効力
3189	民事法学	庄 子卿	労働者性判断における「指揮命令拘束性」の再検討—「業務の性質」に着目して—
3190	民事法学	翁 子茵	標準必須特許におけるグローバル・ロイヤリティレート算定の中英比較
3191	民事法学	高 曄菲	新株発行の無効原因と株主の支配的利益
3192	民事法学	庄 悦	役員報酬決定の相当性に対する司法審査基準の在り方に関する考察—日米比較の視点から—
3193	民事法学	戴 銘成	リンク提供による著作物利用行為における法的問題—日中比較—
3194	民事法学	張 舒雅	国際家族法における当事者自治の現状と拡大についての一考察—夫婦財産制、離婚をめぐって—
3195	民事法学	陳 彦貝	商標パロディの許容範囲に関する日中比較
3196	民事法学	李 佳星	日中における音商標の登録に関する比較研究
3197	民事法学	陸 イン霄	不法行為責任における素因減責法理の限界と構造—日中比較の見地から—
3198	公 法 学	呉 亦晨	「刑事民事訴訟法」の成立と終焉—清末 期中国における近代的法典編纂の嚆矢—

番号	専 攻	氏 名	論 文 名
3199	公 法 学	王 可翔	中国におけるパンデミック対策とその法的課題—実効性と裁量統制のバランス—
3200	公 法 学	岡崎 七菜	国外犯罪被害者に対する経済的支援の拡充の検討—犯給法の適用拡大について—
3201	公 法 学	菅野志桜里	日本のジェノサイド条約加盟に向けた国内法整備に関する一考察
3202	公 法 学	小池 智晴	裁判官の内心と法の支配の関係性についての一考察
3203	公 法 学	酒井 洋輔	越境サービス取引における「消費地主義」の理論的脆弱性と執行上の課題—ドイツ売上税法を素材として—
3204	公 法 学	徐 婉芝	無人運航船をめぐる国際法制度の課題と展望—無害通航権に関する論点を中心に—
3205	公 法 学	薛 天	キャンセルをめぐる文化と政治
3206	公 法 学	張 銘林	正当防衛における急迫性の周辺問題について—中国における正当防衛権拡大を契機として—
3207	公 法 学	星 彪雅	法人処罰に関する一考察
3208	公 法 学	安田 里菜	国際刑事法におけるジェンダー犯罪に関する一考察—強制結婚、強いられた妊娠状態の継続、ジェンダーに基づく迫害を中心として—
3209	公 法 学	江頭龍士郎	宇宙関連技術・物品に関する米国輸出入管理規制の検討—2024 年規制改正案を踏まえて—
3210	公 法 学	西陸 歩美	宇宙空間の境界画定問題：今後の課題

番号	専 攻	氏 名	論 文 名
3211	政 治 学	大林憲司マテイ	フランス外務省と中東和平外交、1976 年～1977 年—欧州理事会ロンドン声明の起草過程—
3212	政 治 学	本田理梨子	日・万国郵便連合（UPU）関係史—第 4 回万国郵便大会議までを中心に—
3213	政 治 学	宮本 理博	トルコの難民レジーム参画の試み—2013 年「外国人および国際保護法」の制定過程の分析—
3214	政 治 学	浅野 孝太	小選挙区比例代表並立制下の補欠選挙分析—汚染効果の検証と野党候補者集約の成立条件—
3215	政 治 学	飯淵 尚哉	自民党議員の委員会質疑の研究 自然言語処理による国会議事録のテキスト分析
3216	政 治 学	井上 遼大	第一次石油危機後イギリスのエネルギー安全保障—IEA 設立を巡る外務省の対応—
3217	政 治 学	エルハッサン ライアン	福沢諭吉における議會制度論の形成—ギゾー、ミル、バジヨットの読書から—
3218	政 治 学	太田 優和	自民党「国対族」—国対関係人事の実証分析—
3219	政 治 学	加藤 諒祐	戦後イギリスとフランスの開発政策—第一次ロメ協定交渉過程を中心に—
3220	政 治 学	久場川 傳	湾岸戦争と日本外交—「湾岸平和基金」をめぐる政治過程—
3221	政 治 学	黒川 敬太	河合栄治郎事件とメディア—1938・39 年の言論空間の再検討—

番号	専 攻	氏 名	論 文 名
3222	政 治 学	佐々木裕史	ロカルノ体制期のフランス外交—ドナウ地域再建計画としてのタルデュー・プラン—
3223	政 治 学	出頭 愛斗	不戦条約を巡るソ連外交：マクシム・リトヴィノフの役割を中心に、1928 年～1929 年
3224	政 治 学	曹 鶯馨	中国のアジア開発銀行加盟問題と日本外交
3225	政 治 学	染矢 奈樹	近代日本の主権論とドイツ国家学—ブルンチュリ『一般国法学』の伝播と明治憲法体制—
3226	政 治 学	谷口 聡基	島嶼侵攻に対する通常抑止の失敗—フォークランド諸島奪還に向けた英国の政策決定過程、1982 年—
3227	政 治 学	仲 秋林	陝甘寧辺区における大生産運動と整風運動の関係性について—1939 年-1945 年—
3228	政 治 学	張 皓	権威主義体制における教育と政治的社会化 中国の義務教育法の事例から
3229	政 治 学	陳 碩	中国の WTO 加盟と文化産品取引の市場化をめぐる政治（2002 年～2012 年）—ハリウッド映画の輸入を中心に—
3230	政 治 学	徳能 祐嘉	ジョージ・F・ケナンの外交思想—冷戦終焉期の「国家評議会」構想に見る民主主義観—
3231	政 治 学	豊田 竜平	非政党内閣期の中島知久平—八角資料を通じて—

番号	専 攻	氏 名	論 文 名
3232	政 治 学	松田 昂士	現代日本の言説空間における「ポリティカル・コレクトネス」の相貌—表現の問題としての「政治的正しさ」—
3233	政 治 学	山中 惇敏	憲政会系官僚政治家・江木翼の基礎的研究
3234	政 治 学	楊 兆寧	文化大革命における武闘の発生および収束の再検討—河北省保定市を事例として—
3235	政 治 学	李 美儀	中国の「人民外交」と対日仏教交流の実践—趙朴初の活動を中心に（1952 年～1966 年）—
3236	政 治 学	寺岡二千和	チャーチル政権の対日外交 1941 年 2 月～4 月—松岡外相の訪欧への対応—
3237	政 治 学	池田 明	対口援疆政策の展開と被援助地域の反応—山東省の南疆地域に対する支援を事例として—
3238	政 治 学	尹 逸藍	新聞報道から考えるオリンピックの「神話性」—東京五輪 1964/2020 を中心に—
3239	政 治 学	陳 穎	インターネット時代における中国ドキュメンタリーの変容—「多声性」とその限界—
3240	政 治 学	鄭 澤儀	ロシア・ウクライナ戦争に関するメディア報道の比較内容分析—『ニューヨーク・タイムズ』と『グローバル・タイムズ』を対象として—
3241	政 治 学	刀祢館正明	ジャーナリズムのインタビューに関する研究—朝日新聞オピニオン面の「大型インタビュー」を事例に—

番号	専攻	氏名	論文名
3242	政治学	リュウ ネイショウ	中国ネットナショナリズムにおける政府と民衆の相互作用—安倍晋三銃撃事件を事例に—